

1 教科の到達目標 (学習のねらい、身に付けたい力)

週に4時間、希望制習熟度別「少人数クラス」を実施し、「数学の基礎学力の定着とよりきめ細かな指導」、「自分から進んで学習に打ち込む生徒の育成」を目指します。一人一人の生徒の実態に応じて、より細かな指導を行うことにより、全ての生徒が毎時間の授業で「わかった」という経験を実感して、学習効果とともに学習意欲の向上を図ります。年度当初から習熟度別クラス編成をし、テスト終了後にコース変更の希望をとります。学習内容は、まず正負の数を理解することから始まり、文字式、方程式、比例・反比例、平面図形、空間図形、データの活用を扱っていきます。学習内容も小学校より増えますが、自分の考えを的確に表現処理できることが大切です。この一年で中学の数学の基礎・基本を学習するので、日常的に学習したことを振り返りながら、しっかりと学習内容を身に付けることをねらいとします。また、通常の授業とは別に、朝学習を通して、既習事項の確認、計算力の充実を図っていきます。知識・技能を身に付けると共に、主体的に取り組み、自らの考えを表現する力を身に付けていくことも目標としていきます。

2 年間学習計画と単元 (題材)

学期	月	題材名・単元名	内 容	達成目標 (ねらい)
1 学 期	4	1章 正の数と負の数 1 正の数・負の数 2 加法と減法 3 乗法と除法 4 いろいろな計算	<ul style="list-style-type: none"> 正の符号、負の符号 正の数、負の数の表し方 反対の性質をもつ数量を表す正の数・負の数 数の大小 正の数・負の数の計算 数の集合 素数、素因数の意味 素因数分解 	<ul style="list-style-type: none"> 知 正の数・負の数の四則について理解し、それらの計算ができる。 思 四則計算の可能性について考察し、数の概念について理解を深める、説明することができる。 知 自然数を素因数分解することができる。 思 自然数を素数の積で表すことにより、約数、倍数などの整数の性質についてとらえ直すことができる。
	5			
2 学 期	6	2章 文字の式 1 文字と式 2 文字式の計算 3 文字式の利用	<ul style="list-style-type: none"> 文字の必要性和意味 いろいろな式の表し方 代入の意味と方法 1次式の計算 文字式の表す数量 文字式の利用 	<ul style="list-style-type: none"> 知 文字を使って、数量や数量の関係などを式に表し、文字の必要性和意味を理解する。 文字を使った式の表し方を理解し、それに基づいて式に表したり、表された式の意味を読み取ったりして、文字の式の理解を深める。 簡単な式の四則計算ができる。 思 規則的に変化する事象を、文字式を使って一般的に表すことができる。 文字式を具体的な場面で利用することができる。
	7			
	9	3章 方程式 1 1次方程式 2 1次方程式の利用	<ul style="list-style-type: none"> 方程式の解の意味 等式の性質 移項を利用した方程式の解き方 比例式 1次方程式をつくる手順と解き方 	<ul style="list-style-type: none"> 知 等式の性質をもとにして解を求めることができる。 移項の意味と手順を理解し、能率的に解を求めることができる。 比例式を解くことができる。 思 等式の性質をもとにして方程式を解く方法について考察し、説明することができる。 方程式を具体的な場面で利用することができる。
	10			
	11	4章 比例と反比例 1 比例 2 反比例 3 比例と反比例の利用	<ul style="list-style-type: none"> 関数の意味 比例の意味 比例の式の求め方 比例のグラフ 反比例の意味 反比例の式の求め方 反比例のグラフ 比例の関係の利用 	<ul style="list-style-type: none"> 知 関数の意味を理解する。 具体的な事象の考察を通して、比例、反比例の意味を理解する。 座標の意味を理解する。 比例、反比例を表、式、グラフで表し、それらの特徴を理解する。 思 比例、反比例の見方や考え方で、具体的な事象の考察ができる。
	12			
	12	5章 平面図形 1 平面図形 2 作図 3 円	<ul style="list-style-type: none"> 直線、線分などに関する定義 移動の意味 作図の意味と約束ごと 基本の作図 円に関する用語、性質 	<ul style="list-style-type: none"> 知 直線、線分、角の意味や表し方を理解する。 図形の移動の意味と、その性質について理解する。 基本的な作図のしかたについて理解し、それを利用することができる。 円やおうぎ形についての基本的な用語の意味を知り、その表し方を理解する。 思 図形の移動を具体的な場面で利用することができる。

3 学 期	1	2 立体の体積と 表面積	<ul style="list-style-type: none"> ・平面の決定 ・直線や平面の位置関係 ・立体のいろいろな見方 ・立体の体積、表面積 ・立体の展開図 ・おうぎ形の計量 ・球の体積と表面積 	<p>空間における平面や直線の位置関係を理解する。 柱体の表面積、錐体や球の表面積や体積とその求め方について理解する。</p> <p><input type="checkbox"/>空間における直線や平面の位置関係について考察し、説明することができる。 見取図と展開図を相互に関連づけてみることができる。 おうぎ形の中心角の大きさや弧の長さや面積にどのような関係があるか考察し、説明することができる。</p>
	2	7章 データの活用 1 データの整理と その活用	<ul style="list-style-type: none"> ・度数の分布とヒストグラム ・データの比較 ・累積度数 	<p><input type="checkbox"/>ヒストグラムや代表値の必要性和意味を理解する。 多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の必要性和意味を理解している。</p>
	3	2 確率	<ul style="list-style-type: none"> ・ことがらの起こりやすさ 	<p><input type="checkbox"/>データを分析して分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断することができる。</p>
		総復習	復習問題演習	一年間で学習した内容を理解でき活用できる。

3 評価方法

評価の観点	評価規準	評価方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ○知識・技能の習得ができています。 ○身に付けた知識・技能を様々な場面に活用することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・小テスト ・ワークシート (ノート) ・観察 ・レポート
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○知識、技能を活用して、課題を解決するための思考力、判断力、表現力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・小テスト ・ワークシート (ノート) ・観察 ・レポート
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ○学習に積極的に取り組み、知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力を身に付けるために粘り強い取組ができています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート (ノート) ・ワーク ・観察 ・レポート ・ひまプリ

4 授業の取組についてのアドバイス

- ・授業で積極的に自分の考えをみんなの前で発表していけるようにしましょう。
- ・各単元が終了する毎に、課題（レポート）を出します。しっかりと取組み、提出をしてください。また、ワークへの取組を確認するので、各自でワークにしっかりと取り組んでおいてください。
- ・質問はいつでも受け付けます。積極的に質問をして疑問を解決してください。

5 家庭学習の進め方についてのアドバイス

- ・予習の必要はありません。復習を大切にしてください。授業が行われた日に必ず復習をしてください。授業の振り返り、自分で見つけた課題に取り組んでください。「学びの足跡」を活用してください。
- ・問題集を購入します。できるところは、どんどん進めていってください。
- ・学年ラウンジに置いてある「ひまプリ」を活用し、基礎学力の定着を図ってください。

6 定期考査・小テスト前の取組についてのアドバイス

- ・まずノート（ワークシート）を見直すこと。
- ・日々の努力が一番大切です。小さな積み重ねが大きな成果を生みます。
- ・各単元の節ごとに、小テストを行っていきます。毎時間の授業の復習をしっかりと行ってください。
- ・定期考査だけでなく小テストの結果も評価につながります。基礎的な学力を身に付けると同時に、良い評価につながるように真剣に取り組んでください。
- ・ワークを何度も繰り返し取組み、問題をたくさん解きましょう。

7 苦手な人の取組についてのアドバイス

- ・計算力を身に付けることが大切です。ひまプリやワークを利用して、計算力をアップさせてください。
- ・理解できないことがあれば、すぐに質問に来てください。後回しにははいけません。その日のうちに解決するようにしましょう。
- ・多くの問題に取り組む、慣れることが必要です。
- ・作図では、三角定規やコンパスをきちんと使用して描けるようになることが大切です。